

社格 所在

今按杉山神社と稱ふる社所々にありて何れか實跡ならん詳かならず橘樹郡下星川村字大明神前と云に社ありて祭神日本武尊なりと云ひ又同郡鶴見郡にも同名同神の社あり都築郡茅ヶ崎村字宮谷山に高皇產靈神と天日和志命由布津主命を祭れる神社是なりと云ひ吉田村字杉山には祭神五十猛命と云るを實跡とし大柵村字宮脇山に日本武尊を祭る社なりとも西八朔村字宮山に鎮座の神なりとも云り然るに猿渡容盛云父藤原の考に西八朔村に極樂寺と云る眞言佛寺の境内にいと幽にて坐す社の茅ヶ崎吉田などの社よりも中々に故あるべく覺ゆ其は都築郡村々には大かた杉山大神を崇め祭られぬ里なく市が尾谷本西八朔書砥佐江戸池邊吉田勝田大柵茅ヶ崎上星川川島恩田久保中山など云村々何れも此社ありなほ此外橘樹郡久良郡のうちにあまた所ありてすべて二十五ヶ所に及ぶと云り容盛郡筑郡中をあまねく尋ね索めつれど此を實跡と定むべき證もなし茅ヶ崎と吉田とは外より聊故つきて覺ゆれど證とすべき事なし此二つにつぎては谷本佐江戸にます社も同じ程にて故ありけなれどすべて無徵にして決しがたし西八朔村なるは未だ誰一人實跡と云る人もなければ余が考には中々に茅ヶ崎吉田などの社には勝りて故あるべく覺ゆと云れど是亦明證あらねば如何に共しがたし

阿伎留神社

祭神 神位 陽成天皇元慶八年七月十五日癸酉授武藏國正五位下 勳六等昨切神從四位下

社格 郷社

所在 阿伎留郷五日市村(西多摩郡五日市町大字五日市)

小野神社

祭神

今按社傳に武藏國造兄多毛比命其祖神下春大神を祭るとあれど天下春命は武藏國造ならねば如何あらん實は武邪志國造兄多毛比命をかく誤り傳へたるかとも思はるれど小野神とあるに據らば近江滋賀郡小野神社と同神にて天帶彦國押人命を祭れるにやあらん

神位 陽成天皇元慶八年七月十五日癸酉授武藏國從五位上小野神正五位上

祭日 二月初末日五月五日

社格 郷社(郷社)

所在 一宮村

字外馬

(西多摩郡多摩村大字一宮)

今按神社叢錄に武藏地名考云府中惣社六所明神也云々此邊小野里と云此小野神社なるべしと云れど惣社は今も惣社と云て式内の神社にはあらず注進狀に本宿村の内字小野宮に小野神社ありと云へど一宮村に小野神社ありて傳説に往古多摩郡本宿村の小野宮と云處に鎮座ありしを水災に依て當地に遷されれ村を一宮と稱すとみえ私案抄に載たる正長二年の文書に一宮小野大明神の文あり安居院神道集に六所宮のことを云て一宮、小野大明神と申すとみえ武藏惣社誌に此御社は國府の西南一里ばかり玉河を隔て多摩郡一宮村に鎮座て一宮小野大明神と申すとあるによりて一宮村と決めたり

布多天神社

祭神

祭日 九月二十五日

社格 郷社

所在 上布開宿

今按土人口碑に往古此社玉川の邊今の古天神と稱する處にありしが文明中玉川の水社頭に溢溢するを以て今の地に遷されしなりと云り

大麻止乃豆乃天神社

武藏國 多磨郡

姑く附て後考を俟つ武藏濱路には杉山神社小机庄にあり土俗杉山明神と云茅ヶ崎村とあり

○多磨郡八座 並小○今神 奈川縣管下

祭神 櫛真知命

祭日 八月十五日

社格 郷社

所在 大丸村 圓山(南多摩郡稻城村大字大丸)

今按御嶽山御嶽神社を大麻止乃豆乃天神社と云へれど明證なければ信がたし擁書漫筆に大丸村の丸宮大明神は本社に其名かよひて聞ゆと云るに就て黒河春村がこの説よろしく聞ゆ大丸村は玉川の岸にあり大麻止乃豆は大眞門の津にて玉川の渡津に由あるが大和國櫛真命神社元名大麻呂井天和神とあるを古本には大麻等乃知神社とあるも同義にて埴安池邊にます神かとおほしとあるを合せ考ふるに村名の丸はもと大麻止を大圓など書るよりオホマルと訛り終に大丸とも書くこととなりしなるべく社地の字を大圓山と云は古名の遺れるものと思しくかたがた證ありて聞ゆれば之に従ふ

阿豆佐味天神社

祭神

祭日 三月三日四日八月初日

社格 郷社

所在 殿ヶ谷村(西多摩郡殿ヶ谷村大字殿ヶ谷)

穴澤天神社